

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0

リリースノート

要旨

RH850 スマート・コンフィグレータをご使用いただきまして、誠にありがとうございます。

この添付資料では、本製品をお使いいただく上でのサポート機能および注意事項等を記載しております。ご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願い申し上げます。

目次

1. はじめに	3
1.1 システム要件	3
1.1.1 PC	3
1.1.2 開発ツール	3
2. サポート一覧	4
2.1 デバイス一覧	4
2.2 コンポーネント一覧	5
2.3 新規サポート	8
2.3.1 端子設定でシンボリック名の定義をサポート	8
2.3.2 ユーザーコード保護機能をサポート	9
3. 変更内容	10
3.1 問題の修正	10
3.1.1 エラーコントロールモジュールで割り込み発生機能が動作しない問題を修正	10
3.1.2 オーバーフロー割り込み出力機能使用時にノイズフィルタ機能が動作しない問題を修正	10
3.1.3 スタンバイ コントローラでウェイクアップができない問題を修正	11
3.1.4 MSPI で送信停止ができない問題を修正	11
3.2 仕様変更	12
3.2.1 TAU 入力信号選択の改善	12
3.2.2 TAUD および TAUB ノイズ フィルタ 設定の改善	12
3.2.3 通信コンポーネントのドライブ強度設定の改善	13
3.2.4 A/D コンバータ PWM-Diag 機能の API の改善	13
3.2.5 ワンショットパルス出力機能のスタートトリガモードの改善	14
3.2.6 「端子機能」のハードウェアリソースに「アナログ電源」を追加	14
3.2.7 "r_smc_entry.h"の生成による "r_cg_main.c"のインクルード記述の改善	14
3.2.8 MSPI マスタのコールバック関数設定の改善	15
3.2.9 MSPI の固定 FIFO メモリモード機能の改善	16
3.2.10 「ビューの表示」内のアイテムを整理	16
4. RENESAS TOOL NEWS の改定履歴	17
5. 制限事項	19
5.1 制限事項一覧	19
5.2 制限事項詳細	19

5.2.1	RIIC を使用する場合の制限事項	19
5.2.2	OS タイマの制限事項	20
5.2.3	DMA コントローラの TRS ビットの制限事項	20
5.2.4	シンボリック名の制限事項	20
5.2.5	ツールバーのメニューに関する制限事項	21
6.	注意事項	22
6.1	注意事項一覧	22
6.2	注意事項詳細	22
6.2.1	レジスタ定義ヘッダ・ファイルについて	22
6.2.2	統合開発環境 CS+でのプロジェクト読み込みについて	22
6.2.3	サンプル・プロジェクトについて	23
6.2.4	小数点の記号について	23
6.2.5	機能を共有する端子について	23
6.2.6	割り込みコントローラのリソース名について	24
6.2.7	MSPI マスタの DMA/DTS トリガジェネレータ設定について	24
6.2.8	DTS コントローラの CPU 動作モード設定について	25
6.2.9	RH859/U2x 使用時の言語設定について	25
6.2.10	エラーコントロールモジュール使用時のデバイス変更について	25
6.2.11	エラーコントロールモジュール使用時のプロジェクトについて	26
6.2.12	ヘルプメニューの「リリース・ノート」「ツール・ニュース」について	26
	改訂記録	27

1. はじめに

スマート・コンフィグレータは、マイコン周辺機能を制御するプログラム（デバイス・ドライバ・プログラム）を GUI 設定により自動生成するツールです。各周辺機能の初期化処理以外にも周辺機能を実行する関数を API（Application Programming Interface）として提供します。

1.1 システム要件

動作環境は次の通りです。

1.1.1 PC

- IBM PC/AT 互換機（Windows® 11, Windows® 10 64bit, Windows® 8.1 64bit）
- プロセッサ：1GHz 以上（ハイパースレッディング、マルチコア CPU に対応）
- メモリ容量：推奨 4GB 以上。
- ハードディスク容量：空き容量 500MB 以上
- ディスプレイ：1024×768 以上の解像度、65536 色以上

1.1.2 開発ツール

- ルネサスエレクトロニクス製 RH850 用コンパイラ CC-RH V2.05.00 以上
- GHS Multi V8.1.4 以上
- IAR Embedded Workbench for RH850 V3.10.1※以上

※IAR Embedded Workbench for RH850 V3.10.1 では RH850/U2B はサポートされていません。

2. サポート一覧

2.1 デバイス一覧

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0 がサポートするデバイス一覧です。

表 2-1 サポートデバイス

グループ (HW マニュアル番号)	ピン数	デバイス名 (デバイスファイルバージョン)
RH850/F1KM-S1 グループ (R01UH0684JJ0130)	48pin	R7F701693, R7F701694, R7F701695(V1.40)
	64pin	R7F701690, R7F701691, R7F701692(V1.40)
	80pin	R7F701687, R7F701688, R7F701689(V1.40)
	100pin	R7F701684, R7F701685, R7F701686(V1.40)
RH850/F1KM-S2 グループ (R01UH0684EJ0130)	100pin	R7F701760 (V1.40)
	144pin	R7F701762 (V1.40)
	176pin	R7F701764 (V1.40)
RH850/F1KM-S4 グループ (R01UH0684JJ0130)	100pin	R7F701760, R7F701644, R7F701645 (V1.40)
	144pin	R7F701762, R7F701646, R7F701647 (V1.40)
	176pin	R7F701764, R7F701648, R7F701649 (V1.40)
	232pin	R7F701650, R7F701651(V1.40)
	272pin	R7F701652, R7F701653 (V1.40)
RH850/F1KH-D8 グループ (R01UH0684EJ0111)	176pin	R7F701708, R7F701709 (V1.20)
	233pin	R7F701710, R7F701711 (V1.20)
	324pin	R7F701714, R7F701715 (V1.20)
RH850/U2A16 グループ (R01UH0864EJ0130)	292pin	R7F702300 ^{*1} , R7F702300A (V1.20), R7F702300B (V1.10)
	373pin	R7F702300 ^{*1} , R7F702300A (V1.20), R7F702300B (V1.10)
	516pin	R7F702300 ^{*1} , R7F702300A (V1.20), R7F702300B (V1.10)
RH850/U2A8 グループ (R01UH0864EJ0130)	292pin	R7F702301 ^{*1} , R7F702301A (V1.20), R7F702301B (V1.00)
	373pin	R7F702301 ^{*1} , R7F702301A (V1.20), R7F702301B (V1.00)
RH850/U2A6 グループ (R01UH0864EJ0130)	144pin	R7F702302 (V1.10)
	156pin	R7F702302 (V1.10)
	176pin	R7F702302 (V1.10)
	292pin	R7F702302 (V1.10)
RH850/U2B10 グループ (R01UH0923EJ0050)	292pin	R7F70254x (V1.00)
	373pin	R7F70254x (V1.00)
	468pin	R7F70254x (V1.00)
RH850/U2B6 グループ (R01UH0923EJ0050)	292pin	R7F70255(V1.00)
RH850/C1M-A2 グループ (R01UH0607EJ0120)	252pin	R7F701275(V1.10)

※1. CS+V8.08 以降は未対応です。

これらのデバイスを使用する場合は、CS+V8.07 以前を使用するか、ルネサスの特約店からデバイス・ファイルを手手してください。

2.2 コンポーネント一覧

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0 がサポートするコンポーネント一覧です。

表 2-2 サポートコンポーネント

✓：サポート, -：非サポート

No	コンポーネント	モード	RH850 C1M	RH850 E1KM	RH850 E1KH	RH850 U2A	RH850 U2B	備考
1	A/D コンバータ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
2	CSI マスタ	マスタ送信	✓	✓	✓	-	-	
		マスタ受信	✓	✓	✓	-	-	
		マスタ送信/受信	✓	✓	✓	-	-	
3	CSI スレーブ	スレーブ送信	✓	✓	✓	-	-	
		スレーブ受信	✓	✓	✓	-	-	
		スレーブ送信/受信	✓	✓	✓	-	-	
4	データ CRC	-	✓	✓	✓	✓	-	
5	DMA コントローラ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
6	DTS コントローラ	-	✓	-	-	✓	-	
7	エラーコントロール モジュール	-	✓	-	-	✓	-	
8	ATOM Signal Output Mode Compare	-	-	-	-	✓	-	
9	ATOM Signal Output Mode Immediate	-	-	-	-	✓	-	
10	ATOM Signal Output Mode PWM	-	-	-	-	✓	-	
11	ATOM Signal Output Mode Serial	-	-	-	-	✓	-	
12	Dead Time Module	-	-	-	-	✓	-	
13	GTM Clock	-	-	-	-	✓	-	
14	TIM Bit Compression Mode	-	-	-	-	✓	-	
15	TIM Gated Periodic Sampling Mode	-	-	-	-	✓	-	
16	TIM Input Event Mode	-	-	-	-	✓	-	
17	TIM Input Prescaler Mode	-	-	-	-	✓	-	
18	TIM Pulse Integration Mode	-	-	-	-	✓	-	
19	TIM PWM Measurement Mode	-	-	-	-	✓	-	

表 2-3 サポートコンポーネント

✓ : サポート, - : 非サポート

No	コンポーネント	モード	RH850 C1M	RH850 F1KM	RH850 F1KH	RH850 U2A	RH850 U2B	備考
20	TIM Serial Shift Mode	-	-	-	-	✓	-	
21	Time Base Unit	-	-	-	-	✓	-	
22	割り込みコントローラ	-	✓	✓	-	✓	✓	テーブル参照方式のみ
23	キーリターン	-	-	✓	✓	-	-	
24	MSPI マスタ	マスタ送信	-	-	-	✓	✓	LVDS モードはサポートしない
		マスタ受信	-	-	-	✓	✓	
		マスタ送信/受信	-	-	-	✓	✓	
25	MSPI スレーブ	スレーブ送信	-	-	-	✓	✓	
		スレーブ受信	-	-	-	✓	✓	
		スレーブ送信/受信	-	-	-	✓	✓	
26	OS タイマ	-	✓	✓	✓	✓	-	
27	ポート	-	✓	✓	✓	✓	✓	
28	リアルタイムクロック	-	-	✓	✓	✓	-	
29	RIIC マスタ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
30	RIIC スレーブ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
31	SCI3 調歩同期式モード	送信	✓	-	-	✓	-	
		受信	✓	-	-	✓	-	
		送信/受信	✓	-	-	✓	-	
		マルチプロセッサ送信	✓	-	-	✓	-	
		マルチプロセッサ受信	✓	-	-	✓	-	
		マルチプロセッサ送信/受信	✓	-	-	✓	-	
32	SCI3 クロック同期式モード	送信	✓	-	-	✓	-	
		受信	✓	-	-	✓	-	
		送信/受信	✓	-	-	✓	-	
33	スタンバイコントローラ	-	-	✓	✓	✓	-	Stop, Deep Stop モードのみ
34	クロック分周	-	✓	✓	✓	✓	✓	
35	ディレイカウント	-	✓	✓	✓	✓	✓	

表 2-4 サポートコンポーネント

✓ : サポート, - : 非サポート

No	コンポーネント	モード	RH850 C1M	RH850 F1KM	RH850 F1KH	RH850 U2A	RH850 U2B	備考
36	外部イベントカウン ト	-	✓	✓	✓	✓	✓	
37	入力インターバルタ イマ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
38	入力期間カウント検 出	-	✓	✓	✓	✓	✓	
39	入力位置検出	-	✓	✓	✓	✓	✓	
40	入力パルスインター バル判定	-	✓	✓	✓	✓	✓	
41	入力パルスインター バル測定	-	✓	✓	✓	✓	✓	
42	入力信号幅判定	-	✓	✓	✓	✓	-	
43	入力信号幅測定	-	✓	✓	✓	✓	-	
44	インターバルタイマ	-	✓	✓	✓	✓	✓	
45	ワンパルス出力	-	✓	✓	✓	✓	✓	
46	ワンパルスショット 出力	-	✓	✓	✓	✓	✓	
47	オーバーフロー割り 込み出力(入出力期間 カウント検出)	-	-	✓	✓	✓	-	
48	オーバーフロー割り 込み出力(幅測定)	-	-	✓	✓	✓	✓	
49	PWM 出力	-	✓	✓	✓	✓	✓	
50	三角波 PWM 出力	-	✓	✓	✓	✓	-	
51	三角波 PWM 出力 (デッドタイム付き)	-	✓	-	✓	✓	✓	
52	UART インタフェー ス	送信	✓	✓	✓	✓	✓	
		受信	✓	✓	✓	✓	✓	
		送信/受信	✓	✓	✓	✓	✓	
53	ウィンドウウォッチ ドッグタイマ	-	✓	✓	✓	✓	-	
54	ADC 境界フラグジェ ネレータ		-	-	-	-	✓	

2.3 新規サポート

2.3.1 端子設定でシンボリック名の定義をサポート

[端子番号]ビューでのシンボリック名を設定できるようになりました。

これにより、デバイスを変更しても同じソフトウェアを使用できるようになります。

端子にシンボリック名を設定すると、デバイス変更時にシンボリック名を移行できます。

シンボリック名のコードは、pin.h ファイルに生成されます。

端子設定							
端子番号							
フィルタ入力 (* = any string, ? = any character)							すべて
端子番号	端子名	ボード機能	機能	方向	備考	シンボリック名	コメント
A5	P20_12/GTM0I4/GTMAT000/ADCJ0TRG3/E...		P20_12	IO	この端子を初期化す...	test1	
A6	P20_9/GTM0I7/GTMAT100/ADCJ0TRG1/ET...		P20_9	IO	この端子を初期化す...	test2	
A7	P20_7/GTM0I4/GTMAT004/ETNB0CRS_DV...		P20_7	IO	この端子を初期化す...	test3	
A8	P20_5/GTM1I5/GTMAT102N/GTMAT007/L...		P20_5	IO	この端子を初期化す...	test4	
A9	P20_3/GTM1I1/GTMAT103N/ETNB0MDIO/...		設定されていま...	なし			

図 2-1 シンボリック名の設定

<pre> /* ***** Macro definitions ***** */ /* User's guide for symbolic name. * The generated symbolic names can be used in the user application as follows: * * Example: Toggle LED1 at Pin P5_4. * There are 2 ways to toggle LED1 * 1) Using symbolic name macro * Assuming the symbolic name for P5_4 is "LED1", the generated macro definition will be: * #define LED1 5,4 * * To use this macro definition to toggle the LED1, call the symbolic name APIs: * PIN_WRITE(LED1) = ~PIN_READ(LED1) * * 2) Not using symbolic name macro * Call the symbolic name APIs directly * PIN_WRITE(5,4) = ~PIN_READ(5,4) */ </pre>		使用説明
<pre> /* Symbolic name */ #define test1 20,12 #define test2 20,9 #define test3 20,7 #define test4 20,5 </pre>		シンボリック名
<pre> /* Pin write helper */ #define PIN_WRITE_HELPER(x,y) ((PORT0.P##x##.BIT.P##x##_##y)) /* Pin read helper */ #define PIN_READ_HELPER(x,y) ((PORT0.PPR##x##.BIT.PPR##x##_##y)) /* Pin write API */ #define PIN_WRITE(...) /* Pin read API */ #define PIN_READ(...) (PIN_READ_HELPER(__VA_ARGS__)) </pre>		シンボリック名用 API

図 2-2 Pin.h のシンボリック名の記述

※ RH850/F1KM、RH850/F1KH はシンボリック名をサポートしていません。

また、APORT、JPORT、IPOINT のシンボリック名の定義はサポートしていません。

2.3.2 ユーザーコード保護機能をサポート

ユーザーコードを保護する機能をサポートしました。

図 2-3 に示すように、指定のタグ「`/* Start user code */`」と「`/* End user code */`」を使用することで、生成コード内の任意の場所にユーザーコードを挿入できます。

このようにして挿入したユーザーコードは、再コード生成を行っても削除されません。

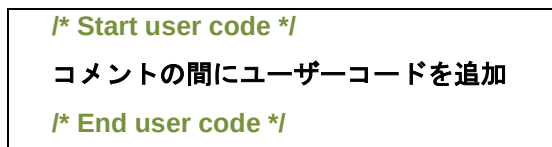


図 2-3 ユーザーコード保護機能の指定タグ

挿入したユーザーコードの前後にある生成コードに変更がある場合(GUI の設定変更、スマート・コンフィグレータのバージョンアップなど)、生成コードに競合が発生します。

競合が発生すると、図 2-4 のようにコンソールに赤色の競合メッセージが表示されます。

コンソールの競合ファイルをクリックして File Compare ビューを開き、競合を解決することができます。

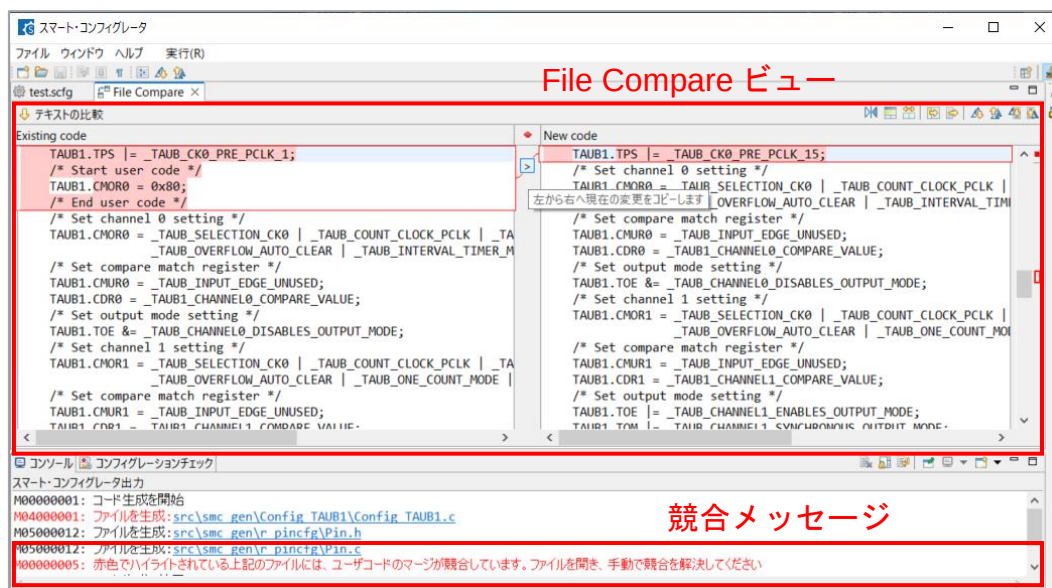


図 2-4 生成コードの競合

競合を解決するには 2 つの方法があります。

- 1) 「左から右へ現在の変更をコピー」 ボタンをクリックし、未使用のコードを削除して競合を解決する。
- 2) 右側のパネルのコードを直接編集して、競合を手動で解決する。

3. 変更内容

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0 の変更点について説明します。

3.1 問題の修正

表 3-1 修正された問題一覧

✓：対象デバイス, -：対象外デバイス

No	内容	C1M RH850	E1KM RH850	E1KH RH850	U2A RH850	U2B RH850	備考
1	エラーコントロールモジュールで割り込み発生機能が動作しない問題を修正	-	-	-	✓	-	
2	オーバーフロー割り込み出力機能使用時にノイズフィルタ機能が動作しない問題を修正	-	-	-	✓	-	
3	スタンバイコントローラでウェイクアップができない問題を修正	-	✓	✓	-	-	
4	MSPI で送信停止ができない問題を修正	-	-	-	✓	✓	

3.1.1 エラーコントロールモジュールで割り込み発生機能が動作しない問題を修正

エラーコントロールモジュールで「割り込み生成」を選択した場合、生成コード内にレジスタ「ECMINCFGi_j」の設定コードは生成されない問題を修正しました。

+/-	エラー要因カテゴリ	エラー要因	マスカブル割り込み	割り込み発生	DCLSI
+	DTS/DMAC	DTS転送エラー/ DMAアドレスエラー(デバッグ目的のみ)	マスカブル割り込み(EIレベル)	☒	-
+	OSタイマ	OSタイマ1割り込み	マスカブル割り込み(EIレベル)	☒	-

図 3-1 エラー要因設定

3.1.2 オーバーフロー割り込み出力機能使用時にノイズフィルタ機能が動作しない問題を修正

TAUJ2_2、TAUD2_3、TAUJ3_2、TAUJ3_3を「オーバーフロー割り込み出力(入力期間カウンタ検出)」および「オーバーフロー割り込み出力(幅測定)」として使用する場合、「デジタルノイズ除去許可設定」にチェックを入れてもノイズフィルタ機能が動作しない問題を修正しました。

図 3-2 ノイズフィルタ設定

3.1.3 スタンバイ コントローラでウェイクアップができない問題を修正

スタンバイ コントローラで下記のウェイクアップファクタを選択すると、これらの要因によるトリガが発生せず、チップが DeepSTOP モードから RUN モードにウェイクアップできなくなる問題を修正しました。

The screenshot shows the '設定' (Settings) screen of the RH850 Smart Configurator. The 'スタンバイモード設定' (Standby Mode Setting) section has 'DeepSTOPモード' selected. The 'ウェイクアップ要因1設定' (Wake-up Factor 1 Setting) section lists various interrupt pins and timer units. Red boxes highlight the following settings:

- DeepSTOPモード** (selected in Standby Mode Setting)
- INTP16, INTP17, INTP18, INTP19, INTP20, INTP21, INTP22, INTP23** (all unchecked in the first group of pins)
- INTTAUJ2I0, INTTAUJ2I1, INTTAUJ2I2, INTTAUJ2I3** (all unchecked in the second group of timer units)

図 3-3 問題のウェイクアップファクタ設定

3.1.4 MSPI で送信停止ができない問題を修正

MSPI マスタと MSPI スレーブを使用している場合、R_{Config_MSPImn}_Stop() API を呼び出してもチャンネルを正常に停止できない問題を修正しました。

3.2 仕様変更

表 3-2 仕様変更一覧

✓: 対象デバイス, -: 対象外デバイス

No	内容	RH850 C1M	RH850 F1KM	RH850 F1KH	RH850 U2A	RH850 U2B	備考
1	TAU 入力信号選択の改善	✓	-	-	✓	✓	
2	TAUD および TAUB ノイズ フィルタ設定の改善	✓	✓	✓	✓	✓	
3	通信コンポーネントのドライブ強度設定の改善	-	✓	✓	-	-	
4	A/D コンバータ PWM-Diag 機能の API の改善	-	-	-	✓	-	
5	ワンショットパルス出力機能のスタートトリガモードの改善	✓	-	-	-	✓	
6	「端子機能」のハードウェアリソースに「アナログ電源」を追加	✓	✓	✓	✓	✓	
7	"r_smc_entry.h" の生成による "r_cg_main.c" のインクルード記述の改善	✓	✓	✓	✓	✓	
8	MSPI マスタのコールバック関数設定の改善	-	-	-	✓	✓	
9	MSPI の固定 FIFO メモリモード機能の改善	-	-	-	✓	✓	
10	「ビューの表示」内のアイテムを整理	✓	✓	✓	✓	✓	

3.2.1 TAU 入力信号選択の改善

1 つの TAU 入力信号で 2 つのチャンネルを同時にトリガできるようになりました。

3.2.2 TAUD および TAUB ノイズ フィルタ設定の改善

TAUD および TAUB コンポーネントでノイズ フィルタを設定できるようになりました。

ノイズフィルタ設定

☒ デジタルノイズ除去許可設定

サンプリング数: 2

サンプリングクロック周波数: サンプリングクロック供給/1

図 3-4 ノイズフィルタ設定

3.2.3 通信コンポーネントのドライブ強度設定の改善

通信コンポーネントで、異なるドライブ強度を選択し、異なるボーレートに適應できます。

対象の通信コンポーネント:

MSPI マスタ、MSPI スレーブ、RIIC マスタ、RIIC スレーブ、UART インタフェース、SCI3 調歩同期式モード、SCI3 クロック同期式モード、CSI マスタ、CSI スレーブ



図 3-5 ドライブ強度設定の例(RIIC マスタ)

```
/* Set RIIC0SCL pin */
PORT0.PKCPROT = _WRITE_PROTECT_ENABLE;
PORT0.PWE = SETBIT(10U);
PORT0.PCR10_1.UINT32 = (PORT0.PCR10_1.UINT32 & _PCR_DEFAULT_VALUE) | _PCR_SET_PM;
PORT0.PCR10_1.UINT32 |= _PCR_SET_PODC;
PORT0.PCR10_1.UINT32 &= _PCR_CLEAR_PDSC;
PORT0.PCR10_1.UINT32 &= _PCR_CLEAR_PUCC;
PORT0.PCR10_1.UINT32 |= _PCR_ALT_OUT7;
PORT0.PCR10_1.UINT32 |= _PCR_SET_PMC;
PORT0.PCR10_1.UINT32 &= _PCR_CLEAR_PM;
PORT0.PCR10_1.UINT32 |= _PCR_SET_PBDC;
PORT0.PWE = _PORT_WRITE_PROTECT_DISABLE;
PORT0.PKCPROT = _WRITE_PROTECT_DISABLE;
```

図 3-6 ドライブ強度設定コードの例(RIIC マスタ)

3.2.4 A/D コンバータ PWM-Diag 機能の API の改善

「スキャングループ 4 を使用」および「PWM-Diag イネーブル」を使用する場合、PWM-Diag 機能の API が以下のように改善されました。

ソースファイル: <Config_ADCXn>>.c

[削除した API]:

```
void R_<Config_ADCXn>>_ScanGroup4_OperationOn(void)
void R_<Config_ADCXn>>_ScanGroup4_OperationOff(void)
MD_STATUS R_<Config_ADCXn>>_ScanGroup4_GetResult(バッファ, バッファサイズ)
```

[追加した API]:

```
MD_STATUS R_<Config_ADCXn>>_ScanGroup4_GetPWMDiagResult(バッファ)
```



図 3-7 PWM-Diag イネーブル設定

3.2.5 ワンショットパルス出力機能のスタートトリガモードの改善

ワンショットパルス出力機能に「ハードウェアトリガ」または「ソフトウェアトリガ」を選択する「トリガモード」が追加されました。

以前のスマート・コンフィグレータでは、ワンショットパルス出力機能の起動方法はハードウェアトリガのみでしたが、ワンショットパルス出力機能の起動方法としてソフトウェアトリガが追加されました。

「ソフトウェアトリガ」を使用する場合、void R_<ソフトウェアトリガン名>_SoftwareTriggerOn()関数が生成されます。

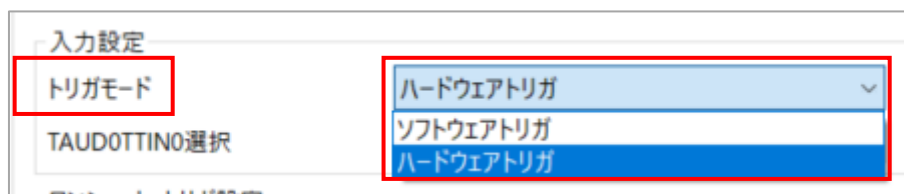


図 3-8 U2B のツールチェーン表示

3.2.6 「端子機能」のハードウェアリソースに「アナログ電源」を追加

「端子機能」のハードウェアリソースに「アナログ電源」のカテゴリを追加しました。

このカテゴリに表示される端子は読み取り専用になります。

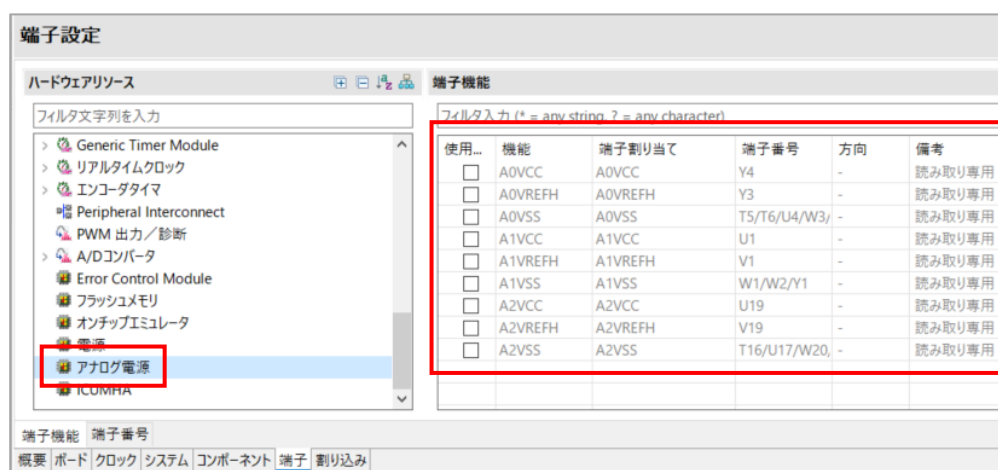


図 3-9 アナログ電源カテゴリ

3.2.7 "r_smc_entry.h"の生成による "r_cg_main.c"のインクルード記述の改善

r_cg_main.c のインクルード記述はすべて "r_smc_entry.h"に移動し、r_cg_main.c 内では "r_smc_entry.h"のみをインクルードするよう変更しました。

3.2.8 MSPI マスタのコールバック関数設定の改善

「コールバック関数設定」の設定に関わらず、「Config_mspinm_user.c」内の割り込みルーチンは、「r_cg_mspi_common_user.c」内の対応する共通割り込みルーチンから常に呼び出されるようになりました。

Config_mspinm_user.c:

“R_<Configuration-name>_Callback_Interrupt_Send”

“R_<Configuration-name>_Callback_Interrupt_Receive”

“R_<Configuration-name>_Callback_Interrupt_Error”

r_cg_mspi_common_user.c:

“r_mspin_interrupt_send”

“r_mspin_interrupt_receive”

“r_mspin_interrupt_error”

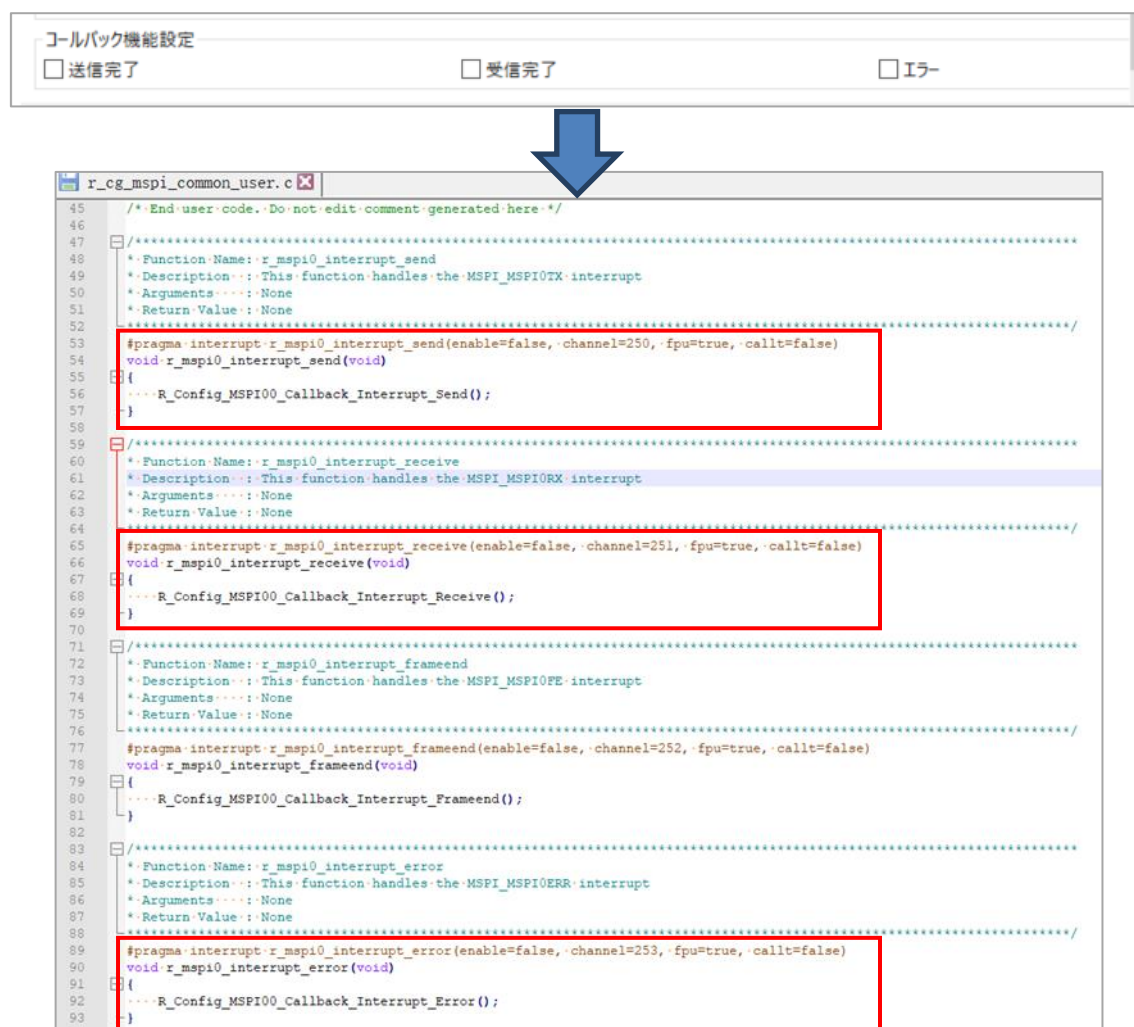


図 3-10 コールバック関数の設定と生成コード

3.2.9 MSPI の固定 FIFO メモリモード機能の改善

MSPI マスタおよび MSPI スレーブ コンポーネントの「固定 FIFO メモリ モード」について、以下の 2 点を変更しました。

- ・ 最大転送フレーム数を 65535 に変更。
- ・ FIFO バッファ内の残りのデータがステージ サイズの半分未満の場合でも送受信可能。

チャンネルモード設定					
チャンネルモード	固定FIFOメモリモード				
FIFOバッファステージ段数	8				
開始アドレス	0x0000				
Safe-SPIプロトコル設定					
Safe-SPI機能	無効				
Safe-SPI CRCエラー	最初のフレームのCRCエラーを隠さない				
ボーレート設定					
ボーレート	1000	(kbps)	(実際の値: 1000, エラー: 0%)		
ピンツールでグループ1/グループ2ピンを選択する場合、最大ボーレートは最大10MHzです。 ピンツールでグループ3ピンを選択する場合、最大ボーレートは最大20MHzです。					
通信設定					
セットアップ時間	1	*MSPI0CLK	ホールド時間	1	*MSPI0CLK
アイドル時間	1	*MSPI0CLK	データ間時間	1	*MSPI0CLK
フレーム長	32		フレーム数	65535	
パリティ・エラー・チェック	無効		パリティ選択	奇数パリティ	
転送方向	MSB				

図 3-11 固定 FIFO メモリ モード設定

3.2.10 「ビューの表示」内のアイテムを整理

「ウィンドウ」メニューの「ビューの表示」で開かれるダイアログにおいて、以下のアイテムを削除しました。

- ・ Minimap
- ・ Navigator (Deprecated)
- ・ ようこそ
- ・ タスク
- ・ ブックマーク
- ・ マーカー
- ・ 問題
- ・ 進行状況
- ・ 虎の巻

4. RENESAS TOOL NEWS の改定履歴

RENESAS TOOL NEWS で連絡した注意事項の改修状況について記載します。

発行日	資料番号	概要	対象 デバイス	改修 バージョン
2019/03/16	R20TS0407	1.クロックを生成しない設定時にビルドエラーが発生する注意事項 2.RAM サイズの表示ミスの注意事項 3.割り込み優先度の表示ミスの注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-rh850-smart-configurator	RH850F1KM	V1.2.0
2016/06/01	R20TS0431	PLL0 クロックを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-rh850-smart-configurator-0	RH850F1KM	V1.2.0
2019/07/01	R20TS0441	1.PWM 出力と三角波 PWM 出力のスレーブ設定を使用する場合の注意事項 2.ポート入力バッファが設定できない注意事項 3.ポートドライブ強度コントロールが設定できない注意事項 4.ポートレジスタが設定できない注意事項 5.タイマの入力エッジの表示ミスの注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850	RH850F1KM	V1.2.0
2019/08/01	R20TS0463	1.入力パルスインターバル測定を使用する場合の注意事項 2.クロック同期シリアルインタフェースでマスタモードを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-0	RH850F1KM	V1.2.0
2019/10/16	R20TS0500	1.データ CRC を使用する場合の注意事項 2.ワンパルス出力を使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-1	RH850F1KM	V1.2.0
2020/04/16	R20TS0569	CSI マスタおよび CSI スレーブを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-2	RH850F1KM	V1.3.0
2020/05/16	R20TS0576	CSI マスタおよび CSI スレーブを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-3	RH850F1KM	V1.3.0

発行日	資料番号	概要	対象 デバイス	改修 バージョン
2021/02/16	R20TS0668	CSI マスタを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-4	RH850F1KM	V1.4.0
2021/04/05	R20TS0679	1. CSIG で CSI マスタおよび CSI スレーブを使用する場合の注意事項 2. CSHH で CSI マスタを使用する場合の注意事項 3. データ CRC を使用する場合の注意事項 4. ワンパルス出力およびワンショットパルス出力を使用する場合の注意事項 5. PWM 出力と三角波 PWM 出力を使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-5	RH850F1KM RH850U2A	V1.4.0
2021/06/16	R20TS0717	ADCJ2 で A/D コンバータを使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-6	RH850U2A	V1.5.0
2021/07/01	R20TS0723	TAUD1 および TAUD2 でワンショットパルス出力、PWM 出力、三角波 PWM 出力、デッドタイム付き三角波 PWM 出力機能を使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-7	RH850U2A	V1.5.0
2021/09/16	R20TS0744	1. CPU サブシステムのクロックソースに CPPLL0OUT を選択する場合の注意事項 2. CSHH の「マスタ受信機能」または「マスタ送信／受信機能」を使用する場合の注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-8	RH850F1KM RH850F1KH	V1.5.0
2022/02/01	R20TS0806	1. A/D コンバータの T&H パス自己診断機能に関する注意事項 2. A/D コンバータのヘッダ・ファイル内の不要なマクロ定義とコメントの誤記に関する注意事項 https://www.renesas.com/document/tnn/notes-smart-configurator-rh850-9	RH850U2A	V1.6.0

5. 制限事項

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0 の制限事項について説明します。

5.1 制限事項一覧

表 5-1 制限事項一覧

✓：対象デバイス, -：対象外デバイス

No	内容	RH850 C1M	F1KM RH850	F1KH RH850	U2A RH850	U2B RH850	備考
1	RIIC を使用する場合の制限事項	-	✓	✓	-	-	
2	OS タイマの制限事項	-	✓	✓	-	-	
3	DMA コントローラの TRS ビットの制限事項	-	-	-	✓	-	
4	シンボリック名の制限事項	✓	-	-	✓	-	
5	ツールバーのメニューに関する制限事項	✓	✓	✓	✓	✓	

5.2 制限事項詳細

5.2.1 RIIC を使用する場合の制限事項

RIIC マスタまたは RIIC スレーブコンポーネントを使用してデータの送受信を行う場合、エラーの割り込み優先順位を他の割り込み優先順位より高く設定する必要があります。

割り込み設定

送信データエンプティ割り込み(TI)	最低
送信終了割り込み(TEI)	最低
受信データフル割り込み(RI)	最低
☐ タイムアウト割り込み許可 (TMOI) ☐ アービトレーションロスト割り込み許可 (ALI) ☒ NACK受信割り込み許可 (NAKI)	
優先順位	最高

図 5-1 RIIC の割り込み設定

5.2.2 OS タイマの制限事項

スマート・コンフィグレータでは、RH850/F1KM、RH850/F1KH の OS タイマは OSTM0 のみサポートしています。OSTM1～OSTM4 はサポートしていません。

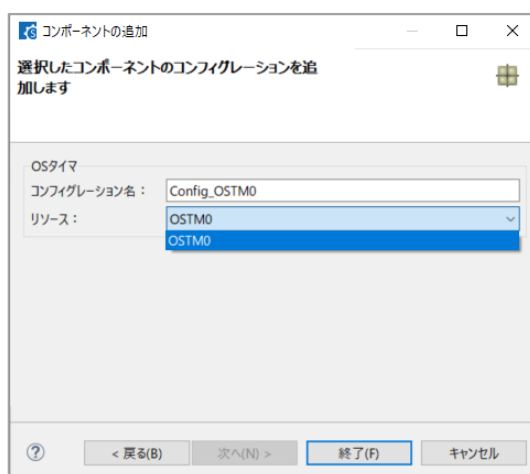


図 5-2 OS タイマのリソース選択(RH850/F1KM、RH850/F1KH)

5.2.3 DMA コントローラの TRS ビットの制限事項

DMA コントローラの生成コード「r_cg_dma.h」内のレジスタ DMAJ TMR_n の TRS ビットのマクロ値が間違っています。正しい値は「0x00001000UL」です。

```
/* Transfer request source (TRS) */
#define _DMAC_AUTO_REQUEST (0x00000000UL) /* Auto request */
#define _DMAC_HW_REQUEST (0x00010000UL) /* Hardware request */
```

図 5-3 DMA コントローラの TRS のビット

5.2.4 シンボリック名の制限事項

_MSPInSSI、_ERROROUT_C など、プレフィックスに“_”が付いた端子機能のシンボリック名は、デバイスを変更するときに移行されません。

[変更前]

端子番号							
フィルタ入力 (* = any string, ? = any character)							
端子番号	端子名	ボード機能	機能	方向	備考	シンボリック名	コメント
AD17	P4_4/GTM115/GTMAT001/_MSPi0SSI/MSPI0CSS...		_MSPi0SSI			test1	
F8	_ERROROUT_M		_ERROROUT_M			-	
M24	P3_8/GTM317/GTMAT100/CAN2RX/INTP2/RLIN3...		_ERROROUT_C			test2	
AD21	P4_12/GTM111/GTMAT102/CAN5RX/INTP5/EXT...		_ERRORIN3			test3	
AE21	P4_11/GTM016/GTMAT101N/CAN5TX/_ERRORI...		_ERRORIN2				

[変更後]

端子番号							
端子番号	端子名	ボード機能	機能	方向	備考	シンボリック名	コメント
AE13	P4_4/GTM115/GTMAT001/_MSPi0SSI/MSPI0CSS...		_MSPi0SSI				
A3	_ERROROUT_M		_ERROROUT_M				
J24	P3_8/GTM317/GTMAT100/CAN2RX/INTP2/RLIN3...		_ERROROUT_C				
AC16	P4_12/GTM111/GTMAT102/CAN5RX/INTP5/EXT...		_ERRORIN3				
AC15	P4_11/GTM016/GTMAT101N/CAN5TX/_ERRORI...		_ERRORIN2				

図 5-4 機能名に“_”がつくシンボリック名の移行

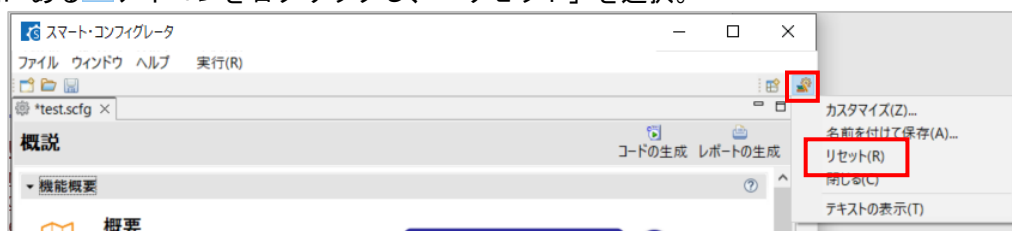
5.2.5 ツールバーのメニューに関する制限事項

以前のバージョンのスマート・コンフィグレータを使用したことがある場合、ツールバーに「実行」というメニューが表示されます。このメニューは無効なため、無視してください。

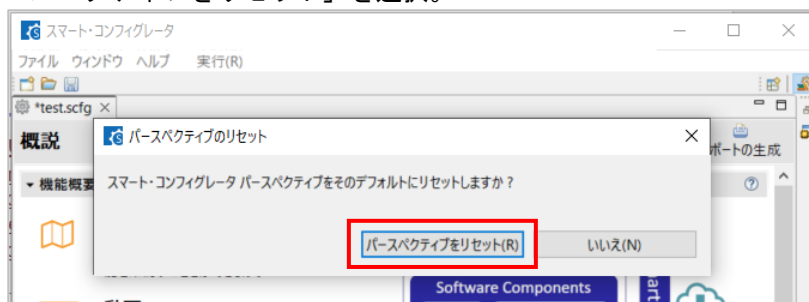


このメニューを削除したい場合は、次の手順に従って操作してください。

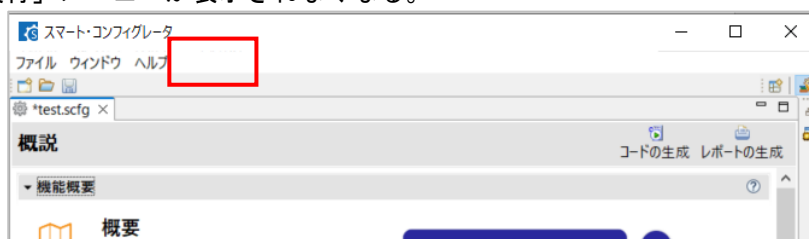
- 1) 右側にある  アイコンを右クリックし、「リセット」を選択。



- 2) 「パースペクティブをリセット」を選択。



「実行」メニューが表示されなくなる。



6. 注意事項

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.9.0 の注意事項について説明します。

6.1 注意事項一覧

表 6-1 注意事項一覧

✓：対象デバイス, -：対象外デバイス

No	内容	RH850 C1M	RH850 F1KM	RH850 F1KH	RH850 U2A	RH850 U2B	備考
1	レジスタ定義ヘッダ・ファイルについて	✓	✓	✓	✓	✓	
2	統合開発環境 CS+でのプロジェクト読み込みについて	✓	✓	✓	✓	✓	
3	サンプル・プロジェクトについて	✓	✓	-	✓	-	
4	小数点の記号について	✓	✓	✓	✓	✓	
5	機能を共有する端子	✓	✓	✓	✓	✓	
6	割り込みコントローラのリソース名	-	✓	-	-	-	
7	MSPI マスタの DMA/DTS トリガジェネレータ設定について	-	-	-	✓	✓	
8	DTS コントローラの CPU 動作モード設定について	-	-	-	✓	-	
9	RH859/U2x 使用時の言語設定について	-	-	-	✓	✓	
10	エラーコントロールモジュール使用時のデバイス変更について	✓	-	-	✓	-	
11	エラーコントロールモジュール使用時のプロジェクトについて	-	-	-	✓	-	
12	ヘルプメニューの「リリース・ノート」「ツール・ニュース」について	✓	✓	✓	✓	✓	

6.2 注意事項詳細

6.2.1 レジスタ定義ヘッダ・ファイルについて

レジスタを定義したヘッダ・ファイルは、ルネサス製の iodefne.h をご使用ください。RH850 スマート・コンフィグレータは、ルネサス製の iodefne.h 内の定義に従ったコードを出力しているため、その他の環境で提供されるレジスタ定義ファイルを使用される場合にビルドエラーとなります。

6.2.2 統合開発環境 CS+でのプロジェクト読み込みについて

RH850 スマート・コンフィグレータを CS+から起動して使用する場合、CS+で「RH850 ビルド・ツール CC-RH 用プラグイン」および「RH850 ビルド・ツール GHS CCRH850 用プラグイン」を有効にしてご使用ください。これらのプラグインを有効にしない場合、RH850 スマート・コンフィグレータの設定情報を含む CS+プロジェクトの読み込み時にエラーが出ます。

6.2.3 サンプル・プロジェクトについて

RH850 スマート・コンフィグレータは、マイクロコントローラのリセット後の処理(スタートアップ・ルーチンを含む)を出力しません。

そのため、RH850 スマート・コンフィグレータで設定した周辺機能とユーザー・アプリケーションをすぐにビルドできるよう、サンプルのスタートアップ等を含むサンプル・プロジェクトを用意しています。

サンプル・プロジェクトについては、スマート・コンフィグレータのインストールディレクトリを参照してください。初期設定では下記のパスになります。

C:\Program Files (x86)\Renesas Electronics\SmartConfigurator\RH850

6.2.4 小数点の記号について

RH850 スマート・コンフィグレータを正しく動作させるには、小数点の区切りは”.”（ピリオド）、桁の区切りは”,”（カンマ）を使用してください。

使用する Windows OS の言語設定によって、小数点や桁の区切り方は”.”（ピリオド）、”,”（カンマ）、” ”（スペース）のどれを使用するのかそれぞれ異なります。たとえば、小数点の区切りに”,”（カンマ）を使用した場合には、RH850 スマート・コンフィグレータが正しく動作しない可能性があります。これは、日本語または英語以外の言語設定で Windows OS を使用しているときに生じます。日本語または英語以外の言語設定の Windows OS 上でコード生成プラグインを使用している場合には、日本語または英語に言語設定を変更してください。

6.2.5 機能を共有する端子について

機能を共有する端子の割り当て時にエラーが表示されます。端子の割り当て後は、エラーは表示されません。

例）RH850/U2A16 の RSENT0 の場合

RSENT0RX と RSENT0SPCO を T24 ピンに割り当て

割り当て時：T24 ピンはエラー表示

☒	RSENT0RX	P6_14/FLMD2/G	T24
☐	RSENT0SPCO	Not assigned	Not assigned
Not assigned K20 T24			

図 6-1 共有端子の割り当て時

割り当て後

☒	RSENT0RX	P6_14/FLMD2/G	T24
☒	RSENT0SPCO	P6_14/FLMD2/G	T24

図 6-2 共有端子の割り当て後

6.2.6 割り込みコントローラのリソース名について

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.2.0 で割り込みコントローラのリソース名を"INTC"に変更しました。以前のバージョンの割り込みコントローラのリソース名が"ICU"から"INTC"に自動的に変更されます。そのため、下記のファイル名とマクロ名が変更されます。

ファイル名の変更

変更前	変更後
r_cg_icu.h	r_cg_intc.h

マクロ名の変更

ファイル名	変更前	変更後
r_smc_interrupt.h	ICU_xxx_PRIORITY	INTC_xxx_PRIORITY

6.2.7 MSPI マスタの DMA/DTS トリガジェネレータ設定について

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.5.0 の MSPI マスタのソフトウェアコンポーネント設定において、DMA/DTS トリガジェネレータ設定で「代替トリガーを使用」を選択した状態でプロジェクトを保存し、V1.6.0 でプロジェクトを開いた場合、代替トリガーは使用されず、デフォルトのトリガーが使用されます。

DMA/DTSトリガジェネレータ設定

☐ DMA ☒ DTS

トリガー1 送信ステータス割り込み (INTMSPI0TX0) ▼

トリガー2 受信ステータス割り込み (INTMSPI0RX0) ▼

☒ 代替トリガーを使用

トリガー1(代替) (DTSMSPI8)

トリガー2(代替) (DTSMSPI9)

図 6-3 V1.5.0 で保存したときの設定

DMA/DTSトリガジェネレータ設定

☐ DMA trigger signal ☒ DTS trigger signal

Trigger1(DMAMSPI4)/Trigger2(DMAMSPI5)

Trigger1(DTSMSPI12)/Trigger2(DTSMSPI13)

トリガー1 送信ステータス割り込み (INTMSPI0TX0)

トリガー2 受信ステータス割り込み (INTMSPI0RX0)

図 6-4 V1.6.0 で読み込んだときの設定

6.2.8 DTS コントローラの CPU 動作モード設定について

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.5.0 の DTS コントローラのソフトウェアコンポーネント設定において、CPU 動作モードで「ユーザモード」を選択してプロジェクトを保存し、V1.6.0 でプロジェクトを開いた場合、CPU 動作モードはデフォルトの「スーパーバイザモード」に変わります。

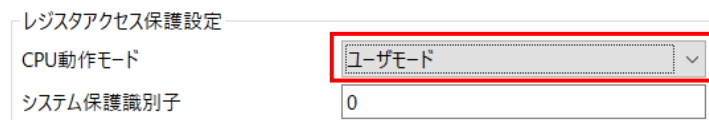


図 6-5 V1.5.0 で保存したときの設定



図 6-6 V1.6.0 で読み込んだときの設定

6.2.9 RH859/U2x 使用時の言語設定について

RH850/U2x を使用時は、英語版 OS でのご利用をお勧めします。

(HW マニュアルが英語版のみ提供されているため、スマート・コンフィグレータの日本語表記は参考表記となります)

日本語版 OS をご利用の場合は、

“<インストールディレクトリ>\¥SmartConfigurator¥RH850¥eclipse¥SmartConfigurator.ini” ファイルに「-Duser.language=en」を追加すると、スマート・コンフィグレータを英語表記にすることが出来ます。

6.2.10 エラーコントロールモジュール使用時のデバイス変更について

エラーコントロールモジュールコンポーネントを使用している場合、RH850/U2A と RH850/C1M の間でデバイスを変更することはお勧めしません。これらのデバイスのエラー要因の多くは異なるため、設定を引き継ぐことはできません。

6.2.11 エラーコントロールモジュール使用時のプロジェクトについて

エラーコントロールモジュールコンポーネントのエラー要因を使用した V1.7.0 以前のプロジェクトを V1.8.0 以降で開く場合、エラー要因が変更されます。

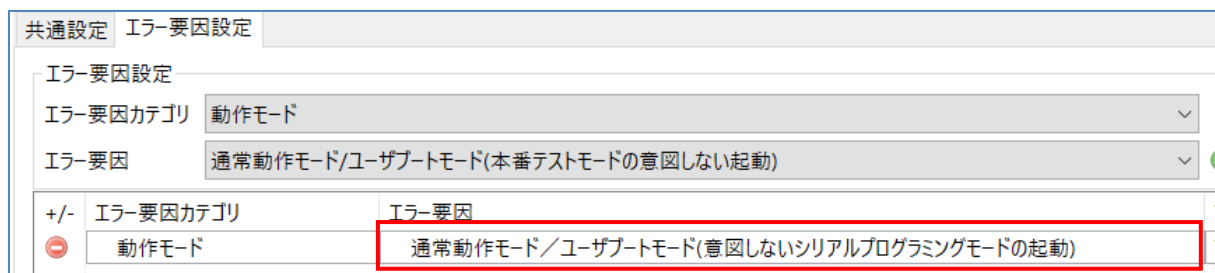


図 6-7 V1.7.0 以前のエラー要因設定

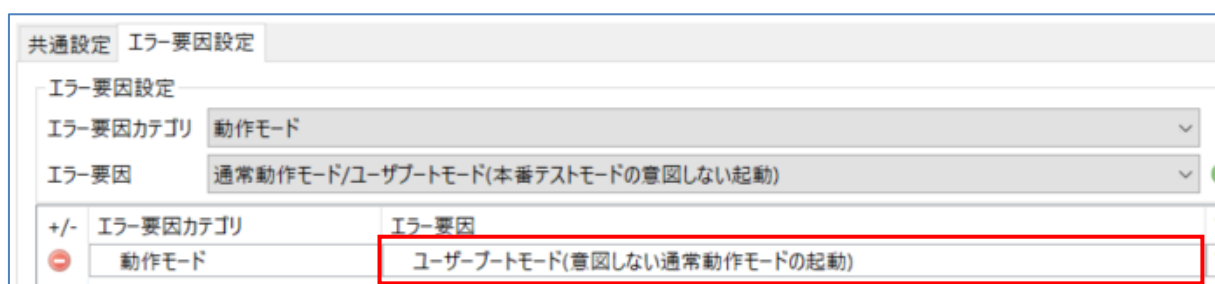


図 6-8 V1.8.0 のエラー要因設定

6.2.12 ヘルプメニューの「リリース・ノート」「ツール・ニュース」について

RH850 スマート・コンフィグレータ V1.7.0 以前のバージョンをご使用の場合、

ヘルプメニューの「リリース・ノート」「ツール・ニュース」を選択した際に正しいページが表示されません。

この問題は、本バージョン(V1.8.0)で修正されました。

V1.7.0 以前のバージョンを使用する場合は、下記の URL にアクセスしてください。

リリースノート : <https://www.renesas.com/rh850-smart-configurator-release-note>

ツールニュース : <https://www.renesas.com/rh850-smart-configurator-tn-notes>

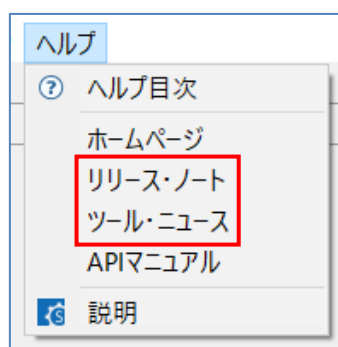


図 6-9 ヘルプメニュー

改訂記録

Rev.	章番号	改訂内容
1.00	-	新規作成

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違うと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。

7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/